

女性医師 - 歴史的観点から -

三重大学人文学部 小川眞里子

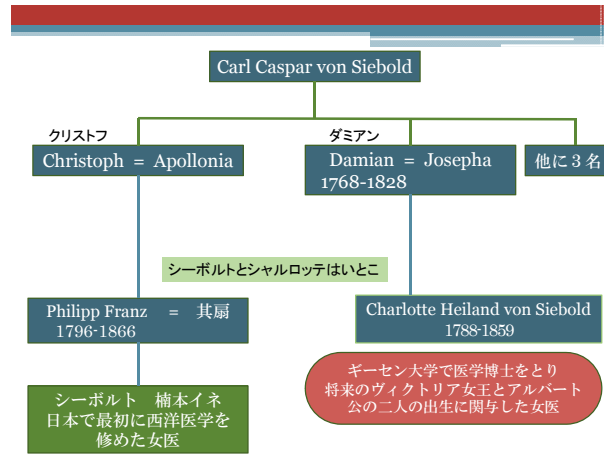
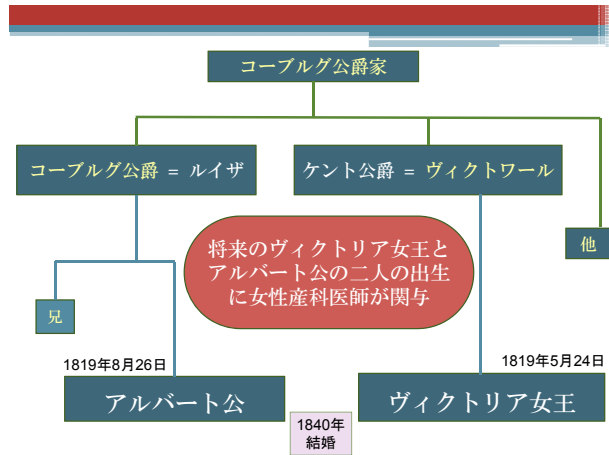
ヴィクトリア女王とアルバート公



シャルロッテ・マリアンヌ・ハイデンライヒ・フォン・シーボルト

シャルロッテ・マリアンヌ・ハイデンライヒ・フォン・シーボルト

- 江戸時代に来日したシーボルトのいとこ
- ケント公爵と結婚したヴィクトワール王女は臨月間近に産婦人科医シャルロッテを伴ってロンドンへ向かう。
- ケンジントン宮殿で生まれたヴィクトリア
- シャルロッテは、しばらくヴィクトリアの世話をした後に、コーブルグへ帰国
- アルバートの誕生を成し遂げる。



ケンジントン宮殿 (1819年)



ジョージ4世のただ一人の子シャーロットが1817年に亡くなり、王位継承者の行方が予断を許さぬ状況に。1830年のジョージ4世逝去の後、2番目の弟が王位につきウィリアム4世に。1837年逝去の後、3番目の弟の子ヴィクトリアに王位が回ってきた。

アルバート誕生の地

コーブルグ公爵の妻ルイゼのお産のためにシャルロッテはドイツへ。8月26日に生まれた赤ん坊がアルバート。



アルバートの父親とヴィクトリアの母親は兄妹なので、二人は従姉弟



ケント公爵と公爵夫人 (ヴィクトワール王女) そして娘のヴィクトリア (将来の英国女王)

シャルロッテがドイツから同行して出産に



1819年5月24日に誕生

ドイツで18世紀に女性の医学博士

- ドロテア・クリスティアーナ・エルクスレーベン (Dorothea Christiana Erxleben, 旧姓レポーリン, 1715-1762)
- 啓蒙思想家で医師のCh. P. レポーリンの娘。
- 学位論文をハレ大学に提出し、1754年ラテン語公開討論を満場一致で合格し、医学博士号を取得...きわめて異例なこと。
- 次にハレ大学医学部を女性が卒業したのは1901年だった。プロイセン国内の大学医学部が女子学生を受け入れたのは1908年から。

女性の高等教育の整備が遅れたドイツでは、科学分野での女性の活躍は容易ではなかった。

女性研究者の源流に女医あり

幕末から明治期へ 女医の系譜

名前	生没	記事	
楠本イネ	1827-1903	シーボルトの娘 西洋医学を修得した女医	宮内庁御用係
津久井磯	1829-1910	先駆的助産師	
荻野吟子	1851-1913	公許女医登録第1号 1885年	『花埋み』
生沢クノ	1864-1945	公許女医登録第2号 1887年	内務省に直訴
高橋瑞子	1852-1927	公許女医登録第3号 産婆から女医へ 西尾市出身	津久井に学ぶ
吉岡彌生	1871-1959	東京女医学校創設 1900年	女医の育成

女性研究者の源流に女医あり

- ・米国: エリザベス・ブラックウェルが正規の医師資格を得た最初。1866年ニューヨークに女子医科大学を設立。
- ・英国: エリザベス・G・アンダスンが1866年施療院を開設。ソフィア・ジュクス=ブレイクが1874年にロンドン女子医学校を設立。
- ・日本: 荻野吟子が公許女医第1号(1885年)。吉岡彌生が1900年東京女医学校設立。
- ・韓国: エスター・キム・パクが渡米して1900年に医師資格を取得。
- ・台湾: 蔡阿信。日本に留学。助産婦学校を開設。
- ・フィリピン: オリア・アコスタ・シソンが渡米して1909年に資格取得。フィリピン大学医学部産婦人科教授に。



米国最初の女性医師

エリザベス・ブラックウェル 1821-1910

英国プリストル生まれ。進歩的な父親は教育に男女平等観。父親の事業の失敗から渡米し、ようやく1847年にニュー・ヨーク州北部の田舎の医学校にやっと入学し、医学を修めた。1849年女医になり、新聞で大々的に報道。

1859年妹のエミリーとともに、婦人のための施療院を開設し、後にはそこに人材養成の学校も併設。エリザベスが衛生学、エミリーが産婦人科の教授に。エリザベスは英国における女性医師の育成にも尽力。



エミリー・ブラックウェル 1826-1911

エネルギー保存則から見た男女

エネルギー
男女の力を同等とみなした上で、
出産と高等教育の
両立不能を強調

閉鎖系の全エネルギー量は不変

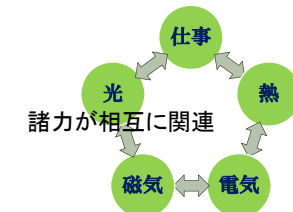
岐阜大学図書館所蔵
The fifth edition



エネルギー
force

<力>の保存則

エネルギー
保存則



たとえば蒸気機関は熱を仕事に転換
マイヤーやジュールが現象を発見
ドイツのヘルムホルツが1847年に理論的定式化

19世紀後半に保存則は身体や精神にも拡張

J・リービッチ
W・B・カーペンター

エネルギー
force

<力>の保存則は警告する

エネルギー
保存則

ハーヴァード大学医学部薬物学教授 1855-1872

E. H. クラーク, *Sex in Education*, 1873.

出産のための器官が発達する思春期に
女子は頭を酷使すべきでない **高等教育は有害男女**

エネルギーが一定なら、配分を考えよ!

多くの反論にもかかわらず驚異的売れ行き

移民家族に比べて

背景に 白人中流家庭の結婚率、出生率の低下

クラークへの反論



アントワネット・ブラックウェル 1825-1921

- ・エリザベス・ブラックウェルの弟と結婚。もう一人の弟の妻はルーシー・ストーンで、ブラックウェル家はフェミニスト一家。
- ・オベリン大学文学部で学んだ後、さらに神学部で学び、女性としてはじめて牧師 (minister) に叙任された。
- ・『自然界における両性』の著書をもってクラークに反論。
- ・女性の知的な活動を支持

オーストラリア・ブロンズ・ブックス・コレクション
University of Edinburgh Library, Edinburgh College, (Blackwell Collection)

クラークへの反論 女性医師の立場から

メアリー・パットナム・ジャコービ 1842-1906 1864年に医学の学位

- ・クラークの『教育における性』に対し、女性の生理学および女性の教育権の両面から反論
- ・月経時に精神的にも肉体的にも休養が必要かどうか。
- ・*The Question of Rest for Women during Menstruation*, 1877. 本の中で、270名ほどのアンケート結果を示す。
- ・健康な女性に、月経休養不要



Carla Bittle, *Mary Putnam Jacobi*, 2009

フローレンス・ナイチンゲール (1820-1910) クリミアの天使

女性科学者としてマリー・キュリーに並ぶ知名度
看護婦としてのキャリアは2年のみ
クリミア戦争での不本意な結果から衛生学へ



ジャマイカ出身の従軍看護婦
メアリー・シーコルの再評価

英国肖像美術館蔵

エリザベス・ギャレット・アンダーソン

1836-1917年



- 1859年女性の雇用促進協会の活動を通して、エリザベス・ブラックウェルに会う。
- 医学生として登録が不可能で1865年薬剤師試験に合格。
- 1870年パリ大学でMDを取得
- 1873年英国医学協会会員に登録され、英国最初の女医に。
- 妹は、ミリセント・ギャレット・フォーセット

ミリセント・ギャレット・フォーセット

1847-1929



ヘンリー・フォーセット

英国肖像美術館

- 妹のミリセントはヘンリー・フォーセットと結婚
- 婦人参政権運動のリーダーとして活躍



娘のフリッパ・フォーセット
(1868-1948) ケンブリッジ大学
数学優等賞を獲得1890年
The Senior Wrangler

ソフィー・ルイザ・ジェクス-ブレイク

- エリザベス・ギャレットのエディンバラ大学受験をサポート。大学は決断を先送りに。
- ハーヴァード大学医学部は拒否
- 1869年エディンバラ大学に女性5人で入学。その後2名加わって、エディンバラ7人組として知られる。
- 1873年女子医学生に学位を出さないことを決定。
- 1877年スイスでMDを獲得。
- かなりの私財を投じて、1874年ロンドン女子医学校創設。



1840-1912

日本最初の女子大学生

日本で最初の女子大学生

1913年(大正2年) 東北帝国大学が、女子に受験資格を与える英断を下した。合格者3人全員が理系。

牧田ラク	東京女子高等師範学校助教授 結婚して家庭に	数学	26歳
黒田チカ	東京女子高等師範学校助教授 日本で2番目の女性理学博士 お茶の水女子大学教授	化学	30歳
丹下ウメ	日本女子大学校助教授 入学後休学 「ステロール類の化合物について」 Johns Hopkins Univ. から PhD 「ビタミンB ₆ 複合体の研究」東京大学 から農学博士(68歳)	化学	41歳



東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

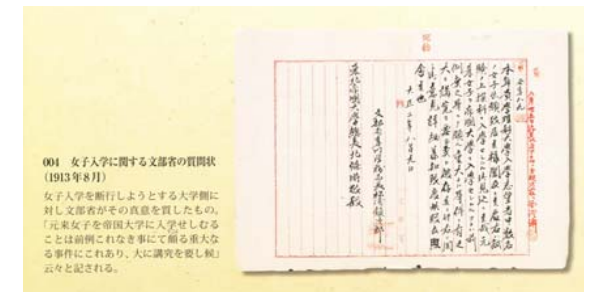
東北帝国大学 初代総長 沢柳政太郎

文部科学省からの圧力に屈せず、
女子学生の入学を許可した。

平成15年から東北大学には、沢柳総長
の名前にちなんで、女性研究者の功績
を讃える沢柳賞が設けられた。



女子入学に関する文部省の質問状



『東北大学の至宝—資料が語る1世紀—』2007年9月より

女性研究者の誕生



2008年国立科学博物館
平成20年3月～5月

日本の女性 科学者技術者

科学の道に挑んだ
日本女性の
パイオニアたち

吉岡彌生記念館

静岡県掛川市（東京女子医大看護学部大東キャンパス）

展示館と実習室



彌生の生家



ちょっと視点を変えて

女性を雇用する理化学研究所
女性を育成する男性研究者

- 女性が帝国大学で職を得ることなど考えられなかった時代に、理化学研究所は理研で嘱託や実験助手に ⇒ 女性雇用のクッション
- 日本女子大学の 長井長義博士
ウィリアム・ブラッグ父子 ⇒
英国に多くの女性結晶学者
- 日本の女性科学者の研究テーマは家政学的テーマが中心（染織や食品） cf. マリー・キュリー

女性研究者	日本の初期の博士	
保井コノ	初の女性理学博士 1927年(昭和2年)	女高師教授 石炭
黒田チカ	女性理学博士 第2号	女高師教授 ペニナ、紫根の構造研究
辻村みちよ	初の女性農学博士	理研に研究の場 鈴木梅太郎に師事 日光特産カラコギカエデ
丹下ウメ	女性農学博士 Johns Hopkins Ph.D	日本女子大で長井長義の薫陶を受ける。 理研に研究の場
鈴木ひでる	女性薬学博士	日本女子大学教授 50歳にして博士 日本女子大長井長義

『女博士列伝』長島譲著 大空社 昭和12年

誕生間もない20名の博士の顕彰



科学知識のつどひの宵

※ 中野重雄・丸山福太郎・藤田 子房宛書・伊藤 誠・大石 啓・大石 啓一・三浦 洋一
※ 黒田チカ・丹下ウメ・辻村みちよ・長井長義・黒田チカ・丹下ウメ・三浦 洋一
（左から順に） 中野重雄宛書・丸山福太郎宛書・大石 啓・大石 啓一・三浦 洋一

『女博士列伝』長島譲著 大空社 昭和12年

誕生間もない20名の博士の顕彰



科学知識のつどひの宵

※ 中野重雄・丸山福太郎・藤田 子房宛書・伊藤 誠・大石 啓・大石 啓一・三浦 洋一
※ 黒田チカ・丹下ウメ・辻村みちよ・長井長義・黒田チカ・丹下ウメ・三浦 洋一
（左から順に） 中野重雄宛書・丸山福太郎宛書・大石 啓・大石 啓一・三浦 洋一

理博 理化学研 助手

理博1号 東京女高師教授

理博2号 東京女高師教授

医博2号 開業医

女博士列伝

医博 東京女子 医専教授

医博1号 家庭生活

医博 開業医

農博1号 理化学研 研究生

医博 開業医

医博 東京女子 医専 助教授

医博 開業医

医博 開業医

医博 京大 副手

医博 日赤産院

医博 笠原研究所 勤務

農博2号 北大嘱託

医博 東京女子 医専助教授

薬博1号 日本女子大教授

女博士列伝

『女博士列伝』の井出ひろの紹介

「この人が博士になるほどの勉強をした人か」と不思議がられる程、それほど教養や学問の欠片すらも、おくびにも現はさず、ただはれ春風胎蕩、対者をして漫ろに畏怖の念を雲散霧消せしめるのが、ここに紹介する井出女史であった。

一家二夫婦四人そろって医学博士となり、社会に好話題を提供した、その一人である。義姉竹内茂代博士が切れる剃刀であり、八面六臂の活動家であるのとは、真実よきコントラストをなすのである。

三重県一志郡川口村(津市白山町)出身の

井出ひろ…女性医学博士第2号

- 明治29年(1896年)三重県一志郡に生まれる。
- 東京女子医専卒業、同附属病院に勤務。
- 井出欽一と結婚
- 生後間もない息子を産んで1921年ワシントンへ。先に行っていた夫とともにシアトルで開業。
- ペンシルヴェニア大学の研究所で学位論文を完成
- 帰国後、東北大学から医学博士の学位取得。
- アメリカ、東京、長野県で開業し産婦人科医として活躍。
- 平成2年(1990年)没、93歳。

さらにユニークな女性研究者

• 宇良田 唯 1873-1936
熊本県天草市出身

日本で61番目の公許女医
日本人女性として初めてドイツの大学で医学博士の学位を取得した女医。
北里柴三郎の紹介状をもって、ドイツマルブルク大学に留学、1905年(明治38年)33歳で医学博士取得。
日本国内の医学博士第1号は宮川庚子で1930年のことであるので、その25年前のこと。

西条敬美『理系の扉を開いた日本の女性たち』新泉社 2009年

• 岡見 京子 1859-1941
青森県出身

横浜共立女学校卒業、1881年から英語教師として桜井女学校に奉職した。
夫の渡米に伴い、ペンシルヴェニア女子医科大学に入学し、医師となって帰国。
1889年慈恵病院の院長高木兼寛の抜擢で、同病院の婦人科の主任として診療に。
1892年赤坂溜池で開業。
1941年82歳で没

長門谷洋治『岡見京子：女子医学留学生第1号』『日本医事新報』1958年

アメリカ最初の女子医科大学 1850年創立

ペンシルヴェニア女子医科大学

- 1889年に医学の学位を得て帰国し東京慈恵医院の婦人科主任の女医として勤務した岡見京子(1859-1941)
- 同医科大学の同級生。インドのアーナンディバイ・ジョーシは帰国後コルハプールの新設病院に婦人科の医師として勤務。夭折が惜しまれる才媛であった
- インドの女性医師第1号は、カダンビニー・ガングリー
- 右端はシリアからの女子留学生



「慈恵医誌 1992;107:295-302」

台湾の女性医師

- 蔡阿信 1899-1990
東京女子医学専門学校に留学
1920年帰国し台湾初の女医
 - 1926-42年台湾に女性のための医学教育なく、日本に留学
 - 東京女子医学専門学校 102名
 - 帝国女子医学専門学校 76名
 - 東洋女子歯科専門学校 50名
- 台湾、高雄医科大学 リーファン・チェン氏からの情報による



台湾最初の女医
蔡阿信がTV
ドラマのモデル

結論

- 女医誕生の最大の障害は、医学教育が女子に開かれていなかったことで、医師になった女性は、後進のための医学教育の場を創設。
- 初期の女性医師の活躍は、婦人参政権運動とリンクしている。
- 女性医師の活躍は、女性に対する医学生理学的偏見への対抗を可能にした。

ご清聴ありがとうございました



荻野吟子 Wikipediaより